



ヒント

- ①. 厚さ 1 cm 程の焼き物の表面に押されたスタンプです。
- ②. スタンプの文様は、「本」の字と格子目状のものが中心となっています。
- ③. 平泉寺が栄えた中世の頃のものと考えられます。

答えは最下段↓

越前禅定道探訪記 その11

ゆかわ きゅうせき
湯川の旧 跡

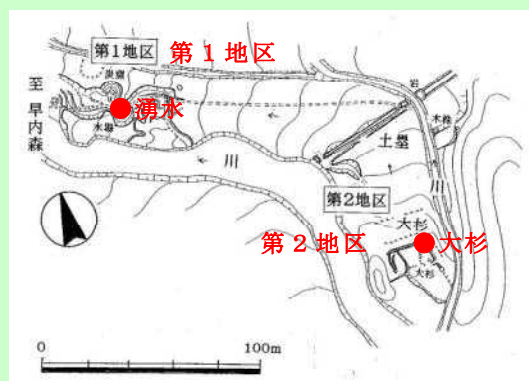
早内森の旧跡からおよそ八〇〇mほど小原峠方向に向かって歩くと、急に人の手の加わった跡に出る。最初に見えてくるのは第1地区としたところで、くぼ地から水が湧き出し、蛇行しながら下流に流れる遺構が確認できる。

奥にある第2地区は、土手(土塁)と大杉などで構成される特殊な遺構である。土塁は幅が3m、高さ50cmで、根元に川原石を巡らし、東西方向に約80mにわたり一直線にのびる。この土塁から奥は平坦地となっており、その隅に周囲が15m以上もある杉の大きな株がある。この大杉は幹自体はなくなっているが、その株から生えた枝は十一本の大木になっている。大杉の樹齢は500年を超えらると思われる。おそらく幹が残っておれば、県内では最も太い杉の一本になるだろう。

この遺構に該当する記述が『平泉寺史要』にある。それによると、「湯河 大杉 貳丈五尺廻り開山大師初入峯の節御手植 三本」とある。この記述からすると杉の周囲は 7.5 mほどで、泰澄大師が白山開山の途中、植えたということになる。

ここは白山十二宿の内の第五宿「温川(湯河)」に相当すると考えられる。

平泉寺史要の記述を要約すると、「泰澄大師がこの所において宿泊した。夜中にのどのかわきをおぼえ、穴から湧き出す水を掌に受けて飲んだところ、急に水から湯にかわった。その味は、浄土の甘露水ともいえるものであったことから、この場所を湯河と名づけた」とある。



湯川の旧跡 遺構略測図



杉の大木

平泉寺かわら版

No. 32 (2011年5月号)



【発行】 勝山市教育委員会 史蹟整備課
【発行日】 平成23年5月26日
【ご意見・ご要望は下記まで】
電話: 0779-88-8113(直通)
メール: shiseki@city.katsuyama.lg.jp



姿を現したガイダンス施設骨格



ガイダンス施設完成予想図

今号の内容

特集: 見学路整備完了
ガイダンス施設の
骨格が出現

連載: 禅定道探訪記
その10
平泉寺こぼれ話
～第25話～

平泉寺見学路整備（一部）完了

- 平泉寺宗像神社から南大門跡付近（グループ六千坊前）の見学路整備が完了しました。この整備は世界遺産登録推進関係の県の支援事業の補助を受けて実施したものです。全長は200m、茶色の脱色アスファルト舗装になっています。これまで、右下の写真にあるように、路肩や水路の石積みが崩れて大変危険でしたが、今後、さらに発掘現場へも周遊できるように整備を進める予定です。



整備後 宗像神社西側



整備前 宗像神社西側



整備後 中間地点



整備後 南大門跡付近



ガイダンス施設の骨格が出現

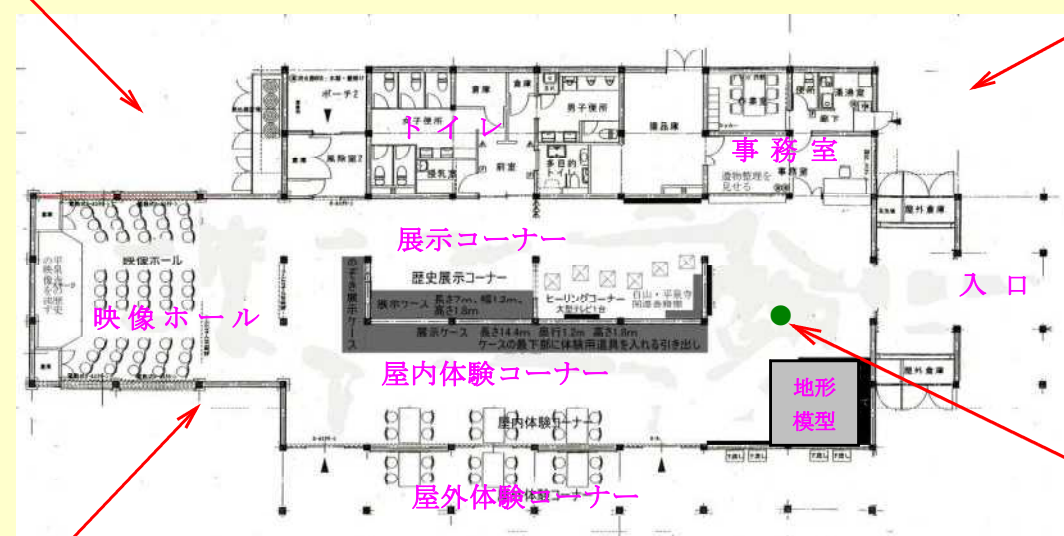
- 史跡平泉寺の魅力を伝えるガイダンス施設（総合案内施設）の柱の組み立てが始まり、建物の骨格が現れてきました。太い柱で組み立てられた骨格は迫力があります。6月中頃には瓦が葺かれ、年内に建物は完成する予定です。来年度は展示工事を進め、平成24年の秋にオープンする予定です。



南西側から（トイレから事務所方向）



正面から（入口部分）



ガイダンス平面図



南東側から（屋内・屋外体験コーナー方向）



平泉寺区産の杉を使った丸柱